

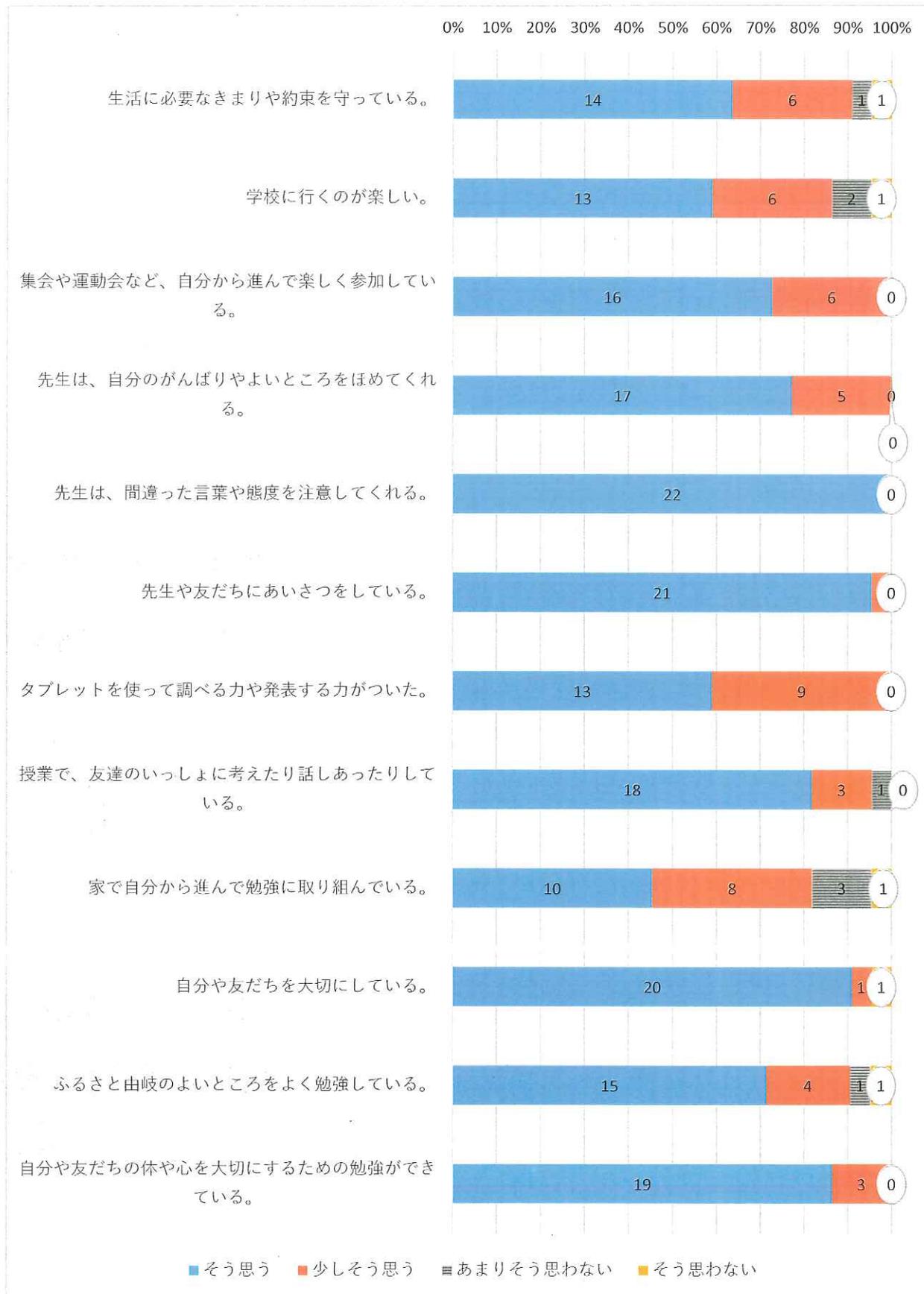
令和7年度

学校評価結果

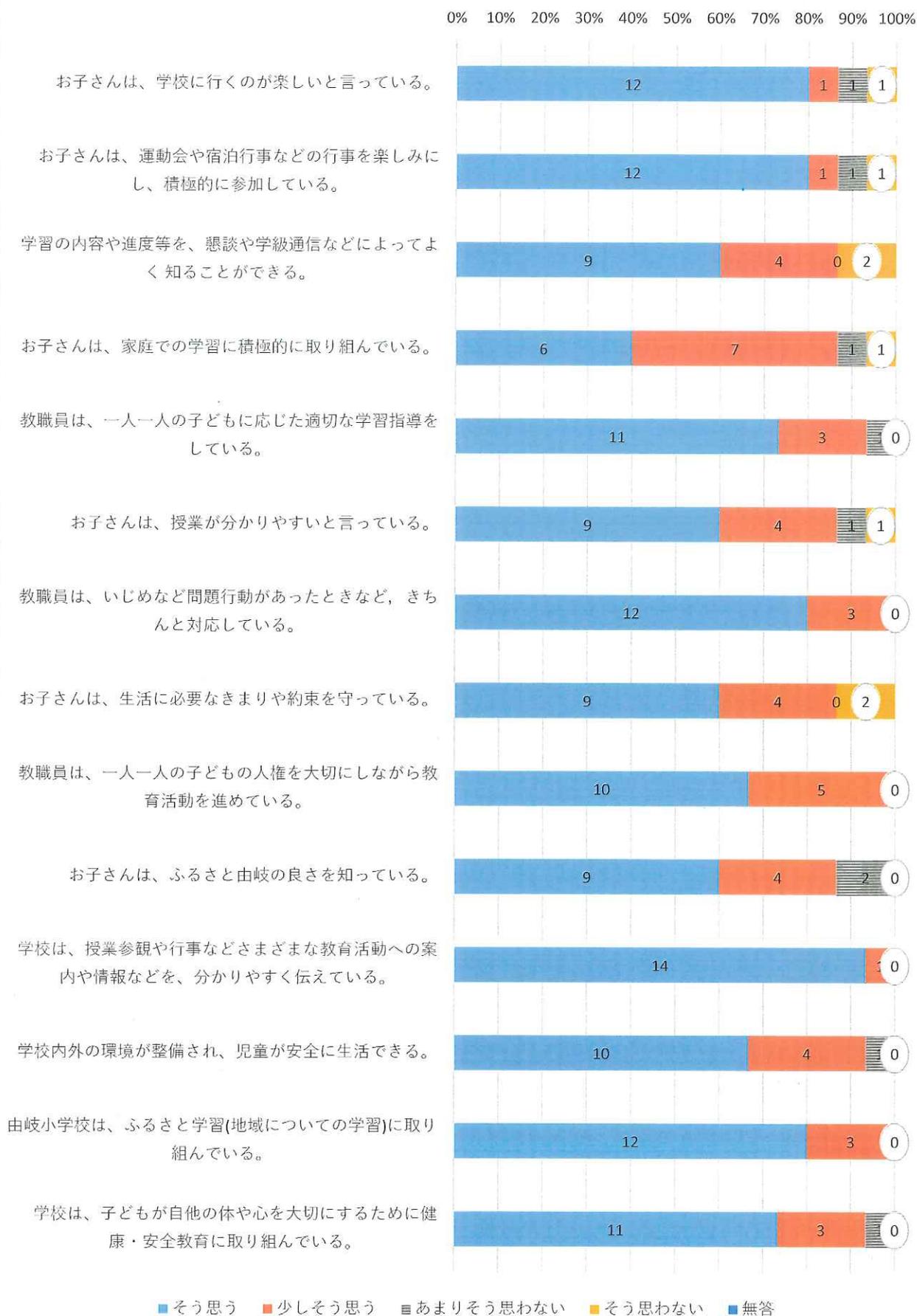
- 児童アンケート
- 保護者アンケート
- 教職員自己評価

美波町立由岐小学校

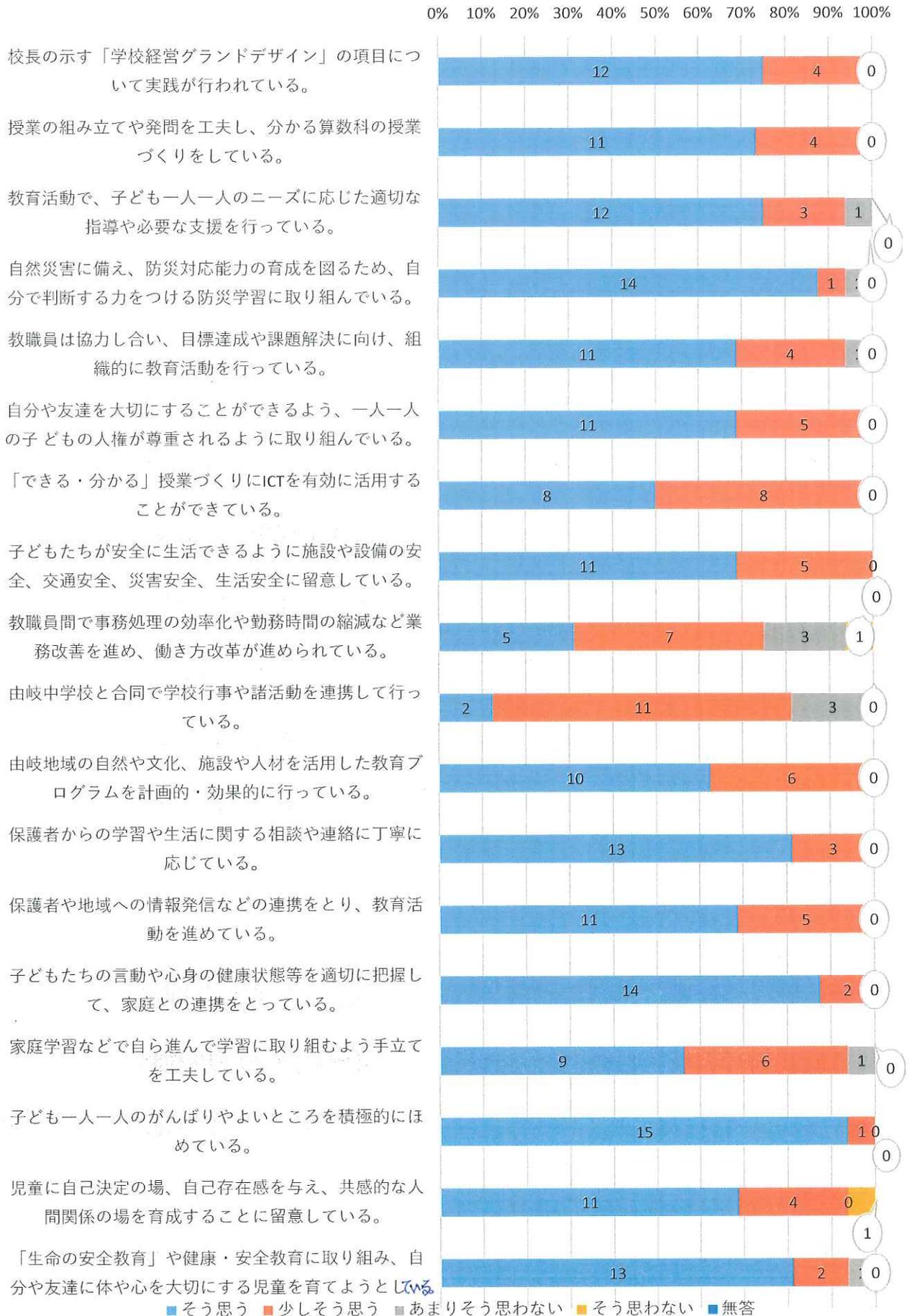
学校評価 児童アンケート 令和7年12月実施



学校評価 保護者アンケート 令和7年12月実施



学校評価 教職員自己評価 令和7年12月実施



令和7年度 由岐小学校学校評価結果について

アンケートの結果と改善策について報告いたします。学校運営委員の皆様からのご意見やご指導をいただきました。今後の学校運営に活かしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

1 学校評価結果の概要について

(1) 昨年度(令和6年度)のアンケートにおける課題について

生活面では、昨年度の保護者アンケートにおいて「いじめなどの問題行動があったとき、きちんと対応している。」という項目で肯定的な回答が89%でした。本校では、この項目を本校の課題として挙げ、次のように考察しました。

「いじめにつながる問題行動には、鋭い人権感覚をもって組織的に毅然と対応しています。必要があれば関係機関とも迅速に連携します。保護者の方が気軽に相談していただけるような学校風土をつくっていきたいです。」

この考察のもと課題解決に努めた結果、今年度は肯定的な回答が100%になりました。これからも児童の問題行動や保護者の方からの相談に組織的対応ができるようにしたいと思っております。

また、学習面では、昨年度の児童アンケートで「ICTを使って授業が分かりやすくなった。」という項目について、回答にばらつきがありました。児童はICTの利便性に気づいており、プレゼンの力もついているけれども、「ICTを使ったら授業が分かりやすくなった。」という実感がわかりにくいのではないかと分析しました。そこで今年度は、質問の文言を「ICTを使って調べる力や、プレゼンする力がついた。」と変更することにしました。その結果、肯定的な回答が100%となりました。

ICTの利活用については、今年度生成AIでデジタルマップを作成したり、漢字学習にICTを取り入れたりするなど取り組み、児童にとって学習意欲を喚起し、集中力を高めることがあったと効果を実感しています。一方で対話や紙媒体などアナログのよさも再確認している場面もありました。今後も「児童にとって分かりやすいか。」という視点で見極めながら活用していきたいと考えております。

さらに、令和7年度に付け加えた評価項目は「性暴力等の防止に関する項目」です。今年度「生命(いのち)の安全教育」を学校経営方針の柱の一つとして、外部講師を招聘し、出前授業や教職員研修を行いました。「生命の安全教育」や健康・安全教育に取り組み、児童は自分や友だちの体や心を大切にできるという項目において肯定的な回答率は次のようになりました。

児童・・・100%、教職員・・・94%、保護者・・・93%です。

この結果から、さらに教職員による授業研究に取り組むとともに、参観授業などで保護者や地域住民への啓発を推進する必要があると考えました。現在日本社会において性犯罪・性暴力の増加しております。児童が性犯罪、性暴力の被害者にも、加害者にも、傍観者にもならないように、学校と家庭、地域と関係機関がともに取り組む必要があると思っております。「いのちを大切にする」教育を継続したいです。

このように学校評価アンケートで課題を分析し、今年度1年間焦点項目を挙げ

て組織的に取り組むことで、学校は良い方向に変わっていけると手ごたえを感じています。今後も学校課題を把握し、解決策を多角的に協議していきたいです。

(2) 今年度（令和7年度）アンケートの結果と考察

よいところ

保護者アンケート

- 「教職員は、いじめなど問題行動があったときなど、きちんと対応している。」
- 「教職員は、一人一人の子どもの人権を大切にしながら教育活動を進めている。」
- 「学校は、授業参観や行事などさまざまな教育活動への案内や情報を、分かりやすく伝えている。」
- 「由岐小学校は、ふるさと学習（地域についての学習）に取り組んでいる。」の項目において「そう思う」「少しそう思う。」が100%と高い評価を受けておりますので、今後も成果を挙げられるように取組を継続します。

児童アンケート

- 「集会や運動会など、自分から進んで楽しく参加している。」
- 「先生は、自分のがんばりやよいところをほめてくれる。」
- 「先生は、間違った言葉や態度を注意してくれる。」
- 「先生や友だちにあいさつをしている。」
- 「タブレットを使って調べる力や発表する力がついた。」
- 「自分や友だちの体や心を大切にするための勉強ができています。」の項目において全員が肯定的な回答をしています。これらの結果から、児童が主体的に行事に参加でき、教職員から自分のよさやがんばりを認められたり、人としていけないことや危ない行為はきちんと注意してもらえたりしているようです。また、ICTを使った学習や、健康安全教育に関心をもって取り組んでいることが分かります。

改善するところ

保護者アンケート

- 「お子さんは、家庭での学習に積極的に取り組んでいる。」（87%）
様々なことが要因となり、宿題や自主学習ができにくい児童がいるのだと思われれます。また、宿題の内容や分量がその子どもに合っていないことも考えられますので、個別の聞き取りなどを行い、その子どもが決めた課題からとりかかってもいいかもしれません。宿題は、出す教員側が授業の内容をどのくらい身につけているかを知って補充するという側面もあります。宿題ができないは悪いことではなく、個別支援や授業改善にもつながりますので、宿題に対する意識改革を図ることも必要かもしれません。
- 「学習の内容や進度等を、懇談や学級通信などによってよく知ることができる。」（87%）
懇談のときに、お子様の学習の様子を分かりやすくお伝えしたり、学級通信でお知らせしたりできるように努めます。心配なことはお気軽にご相談してくださいようにお願いしたいと思います。

児童アンケート

●「学校に行くのが楽しい。」

肯定的な回答が多いが「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した児童がおり、児童のしんどさや困り感に寄り添ったり、保護者から話を聴いたり、「さわやか教育相談」など関係機関と連携したりしながら個別支援が必要です。子どもの心が元気になるように担任だけでなく、学校全体で支援していきます。

●「家で自分から進んで勉強に取り組んでいる。」否定的な回答 14%

前掲の保護者アンケートの結果にみられるとおり、様々な理由で家庭学習を負担に感じている児童がいるようです。「個別最適な学び」という考え方のもと、宿題においても内容や分量、「家庭学習の手引き」などを見直していきたいです。

教職員の自己評価から見える課題

●昨年度に引き続き働き方改革やワークライフバランスという点において、肯定的な評価は(R6年度59%→R7年度75%)と全体的に低い結果となっています。前年比としては、15パーセントほど向上しています。

令和6年度は、長時間勤務を解消し、タイムマネジメントに対する意識を高めるなど、管理職を中心に働き方改革を推進していきました。対応策として、①チームズ、フォームズでのアンケート、学校評価ズーム、デジタル教科書などICTの活用②カエルボードの設置、③毎木曜日を5時間目一斉下校、④金曜日の終礼をなくした。⑤長期休業日前後の下校時刻を早めた。⑥超勤時間の取り返し⑦外部人材の活用など、具体的に改善してきました。令和7年度は①ゆっくりスタート②日直業務について、7自10分の牛乳取り入れをなくした。③長期休業日中のゆるやか勤務④さつまいも畑野菜畑の水やりのためのスプリンクラー設備の買い替え⑤健康増進課巡回相談員の篠原先生や外磯先生との相談体制など取り組んできましたが、働き方に対する肯定的な評価は依然低いです。県や国への要望をしっかりと行っていくとともに、教職員から「働き方に関するアイデア」を募集し、企画や職員会でフィードバックしています。また、地域の方や役場の方が通学路や防災倉庫、避難経路の草刈りや竹取りをしてくださっていることは大変助かっており、感謝しています。

今後に向けて、教職員のアイデアを具現化するための具体案を検討(内容、すぐできるか、いつまでにするか)ハード面、一人一人に合った働き方に、休みがとりやすい職場にしていけるようなソフト面の両面から切り込んでいきたいです。そして、誰一人疲弊することなく、子どもたちのために働ける「幸せな働き方」をめざしたいと思っております。

●中学校との連携について(令和6年度67%→令和7年度82%)

合同運動会、避難訓練、防災デイキャンプや英語授業、PTA活動、特別支援学級に在籍する児童の引継ぎ(美波っ子ファイル等の活用)など、顔の見える温かい連携をしていくことで、進学におけるスムーズな接続や災害時の協力体制構築につながっています。来年度は合同運動会が春開催ということで、打ち合わせは管理職と体育主任だけでなく、教務主任も出席することで企画と実務の溝を埋めていきたいと考えています。またPTAでは、本校が来年度郡P連ソフトボール大会の世話役となります。ご協力をよろしくお願いいたします。

こども園との連携においても、就学支援等で教育委員会や関係機関と昨年度より多くの回数での打ち合わせをさせていただきました。

2 今後の改善方策について

学校評価結果を踏まえて、学校教育目標「人権を大切にし、自ら学び、たくましく・ゆたかに生きる児童の育成」の達成に向けて、次年度は次の4点を重点事項として取り組みます。

(1) 学校経営について

- 自他のいのちを大切にし、健康・安全教育を推進します。
次年度も「生命（いのち）の安全教育」を取り組みます。
- 基礎学力の定着を図り、コミュニケーション力を向上させます。
- 児童が自分で考え、判断し、行動する防災教育を推進します。

(2) 特別支援教育について

- 校内委員会（ケース会）と教育相談など関係機関との連携を充実させます。
- 連携を密にし、校内支援体制を強化します。

(3) 安心・安全な学校

- 自然災害に対する備えをし、校地、校舎、校具の安全確保を図るため、日常の点検を行います。教育委員会と連携して、安全を確保するための設備や備品を整えます。

(4) 地域・家庭とつながり、信頼される学校

- コミュニティスクールを活用して、地域や家庭、中学校やこども園との連携を図ります。（防災・安全・地域学習）
- 児童の課題には、迅速に対応します。必要に応じ関係機関と積極的に連携していきます。

次期学習指導要領に「余白の創出」という言葉があり、学校教育において調整のいらない教育課程（教育の柔軟性）をめざします。やらなければならないことがつめこみすぎて常に調整をしている状態からの脱却です。子どもたちの「学び」はまず「安心していられること」からはじまります。今、子どもにも教職員にも「余白」が必要です。本校でも、どのように「余白」を創出するか話し合い、創出した「余白」が。児童が主役の「たくましく・ゆたかな」学びへとつながるようにしていきたいと思えます。